

(別添3)

【村田町】 校務DX計画

学校を取り巻くICT環境が急速に変化する中で、ICT環境の整備を始めとした教育の情報化のさらなる推進・充実を図り、「村田教育基本方針」における主体的に学ぶ意欲と基礎的・基本的な知識・技能の定着を目指し、1人1台端末導入後、授業支援ソフトウェアや等を活用し、教育のデジタル化を進めてきた。

今後、校務DXを推進するために「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえ、具体的な取組みを次のとおり設定する。

1. 校務系及び学習系ネットワークの統合について

現在、教育ネットワークを児童生徒の個人情報等を取り扱う「校務系」、児童生徒が教育活動で利用する「学習系」の2つに分離し、インターネット経由等から児童生徒の個人情報等にアクセスできない構成としている。

そのため、校務用と学習用それぞれの端末を用意し、校務用端末は持ち出しを禁止している。今後、教職員の働きやすさの向上と教育活動の高度化を目指し、1台の教職員用端末で2つのネットワーク（校務系及び学習系）を切り替えて利用できるようゼロトラストセキュリティの考え方にに基づき適切にセキュリティを確保しつつ、校務系・学習系ネットワークの統合について検討を進める。

2. 次世代校務DX環境の整備について

令和5年3月に文部科学省が取りまとめた「GIGAスクール構想の下での校務DXについて～教職員の働きやすさと教育活動の一層の高度化を目指して～」において方向性が示された「次世代校務DX」環境を目指し、必要な環境整備について、宮城県及び県内の市町村教育委員会等とも連携しながら理解を深めるとともに、校務支援システム導入の検討を進める。

公務支援システムの導入においては、県下統一の校務支援システムの導入に向け、宮城県教育委員会へ共同調達等に向けた働きかけを行う。

学校間や教育委員会と学校との連絡や通知は、FAXは利用せず、引き続き、原則、メールや共有フォルダを利用するなど、各種デジタル化・オンライン化を進めてきたが、学校現場は依然として紙ベースの資料が多いため、業務の円滑化・効率化の観点から、押印の原則廃止を促進し、各種デジタル化及びペーパーレス化を積極的に進めていく。

ICTを活用して校務の効率化を図ることで、教職員の事務負担等を軽減し、児童生徒と向き合う時間を確保し、教職員の働き方改革を推進する。

3. 教育情報セキュリティポリシーの策定について

クラウド上のデータやクラウドサービスを活用することを前提とした教育情報セキュリティポリシーについては、「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」等により文部科学省より示された方向性を確認し、現状を的確に把握しながら策定する。

ただし、新たなセキュリティ環境構築には、ハード・ソフト両面での多額の費用を要することが想定されることから、段階的な整備を検討する。